

令和6年度 静岡県緑化推進有識者会議における委員意見への対応

関係する取組	委員意見	対応	担当する 静岡県緑化推進会議構成員	担当課
取組番号1 緑化資材の提供	<p>価格高騰により球根の入手が困難になっているが、これから更なる値上がりが見られる。従来のオランダ産のものではなく、新潟や富山など国産の球根を活用すると良く、仕入れる時期は4月など早めの時期が良い。また、グリーンバンクが行っている緑化資材の提供については、毎年度同じものにならないよう種類を変えた方が良いのではないか。また、県の絶滅危惧種に近いものを増やして供給するなど、一般的なものよりも静岡県にまつわるものを配布した方が良いのではないか。</p>	<p>(静岡県グリーンバンク) 種子、球根を配布する団体数が約4,500団体と多く、種苗店も苦勞して数をそろえているため、参考にさせていただきます。 定期配布事業で毎年配布する種子、球根は約20種類あります。そのうち毎年継続して配布しているものは7種類(全体の約35%、過去5年の実績)、ほかは毎年違う種類を配布しており、少しではありますが種類も追加しています。 グリーンバンクの定期配布事業は、直接学校に種子、球根を配布しているわけではなく、学校の花壇を管理している緑化ボランティア団体に配布しており、団体が定期配布以外の種子、球根を希望する場合は、必要な緑化資材を申請できる緑化グループ支援事業の活用を呼びかけています。</p>	静岡県グリーンバンク 環境ふれあい課	静岡県グリーンバンク 環境ふれあい課
	<p>学校側としては、グリーンバンクはいつも同じ球根をくれるところという認識になっている可能性があるため、配布する花苗の選択肢を増やしてはどうか。</p>	<p>(事務局) (環境ふれあい課) 県では、令和2年度から「南アルプス高山植物種子保存プロジェクト」を立ち上げ、県内の高校を「ふじのくに生物多様性地域戦略推進パートナー」として委嘱し、絶滅危惧種の種子を各校で人工的に増やし、生息域外での遺伝資源の保全につなげる取組を行っています。</p>		
	<p>毎年度同じ種を配布するのではなく、一度植えた花から種を取り、翌年度その種を植えて育てることや、絶滅危惧種の育苗を増やすなど、ストーリー性があるものをユーチューブでPRしたらどうか。</p>	<p>(静岡県グリーンバンク) 配布された種子、球根から花を育て、翌年その花から採れた種子、球根を活用している団体もありますが、多くの団体は育苗ができる人材や管理設備の不足、高齢化等の理由で花の循環ができていません。ユーチューブを活用した育苗のPRは検討いたします。</p>	静岡県グリーンバンク	静岡県グリーンバンク
	<p>配る側であるグリーンバンクの都合や事情を説明し、受け取る側の意識を改革していくのが良いのではないかと考える。地域の花の会や有識者と連携し、受け取る側に自分たちの力で継続して育てる力を養うべきだと考える。</p>	<p>(静岡県グリーンバンク) グリーンバンクでは、花壇づくりや継続して花を育てる知識の習得機会を増やすため、毎年花壇づくり研修会を開催しています。グリーンバンクの都合や事情については、更なるPRを検討いたします。</p>	静岡県グリーンバンク	静岡県グリーンバンク
	<p>学校花壇に植えられる花は、時代によりある程度の傾向はあるものの、多くはチューリップ、ひまわりなど定番のものに固定されていることが多い。グリーンバンクが継続して取り組んできたことに成果があったとは思いますが、新たなチャレンジにも取り組んでほしい。</p>	<p>(静岡県グリーンバンク) 学校花壇を管理する緑化ボランティア団体は定期配布事業による種子、球根や、緑化グループ支援事業による緑化資材等を活用して花壇の植栽を行っています。令和5年度からは緑化グループ支援事業の学校緑化活動グループ活動枠の内容拡充、専門家派遣制度の導入などにより学校花壇の整備強化を図っており、今後も緑化ボランティア団体のニーズを集約し、新たな事業構築に取り組めます。</p>	静岡県グリーンバンク	静岡県グリーンバンク
取組番号2 花の都づくり	<p>「ふじのくに花の都しずおか推進協議会」のホームページ更新が少ないと感じるため、更新は頻繁に行った方が良い。また、写真を掲載するだけでなく、リアルで行なうと視聴数が伸びる。Instagramのリアルなどを活用していくと良い。</p>	<p>(農芸振興課) これまで外部サーバで運用していた「ふじのくに花の都しずおか推進協議会」ホームページは、令和6年9月から県農芸振興課ホームページ内に移設しました。 ホームページでは、花関連事業の紹介や各種様式の提供、ふじのくに花の都しずおかアドバイザーとして県に登録している花緑関連人材の名簿などの情報を発信しております。期限切れの情報の削除など必要な更新を適宜行い、見やすいホームページの管理を心がけます。 ホームページに協議会Instagramへのリンクを貼り、Instagramにて、新鮮な情報を発信していきます。なお、発信する情報が閲覧者の目にとまるよう、Instagramのリアルの活用を含め、効果的な発信方法を検討いたします。</p>	農芸振興課	農芸振興課
取組番号3 花育活動(寄せ植え)	<p>ユーチューブによる広報は季節ごと、花の種類ごとのように、動画の種類をさらに増やすと良い。ユーチューブを積極的に活用すべきである。</p>	<p>(静岡県グリーンバンク) 現在花育教室実施園の指導者向けに、花育教室のテキストに沿った説明動画をユーチューブにアップして活用しています。 より多くの方に興味を持っていただき、花育教室実施園の拡大を目指すため、花育教室開催当日の様子の発信等を検討いたします。</p>	静岡県グリーンバンク	静岡県グリーンバンク

関係する取組	委員意見	対応	担当する 静岡県緑化推進会議構成員	担当課
取組番号6 しずおか棚田・里地くらぶ	「しずおか棚田・里地くらぶ」についてPRを行うことは良いと考えるが、実際に棚田を維持する農家のサポートを行うことが大切だと考える。農家へのサポートとして、県では何か考えていることはあるのか。	(農地保全課) 本県では棚田保全団体の代表者と行政等の推進関係者で「しずおか棚田ネットワーク」を設立し、県内のつなぐ棚田遺産を未来に継承するための施策を展開しています。その一環で、棚田地域で活用可能な国事業（農山漁村振興交付金）の紹介及び申請事務の支援や、県事業（農村連携促進支援事業、農村次世代関係人口創出事業による企業・大学との連携促進）を支援しています。	経済産業部 政策管理局産業政策課	農地保全課
	田植や稲刈りだけ手伝いに来るような短期的なサポートのみでは棚田の維持は難しく、逆に地域、農家には足かせや負担になってしまうこともある。県はこのような問題に対して、根本的な対策を行なうべきである。具体的な対策として、棚田の買い取りなどがあげられ、そのような組織や団体があれば良いと考える。	(農地保全課) 本県の棚田は個人の農家ではなく、棚田保全管理団体による管理が行われています。そのため、棚田の買い取りはありませんが、企業等が棚田と連携し、水稻だけでなく綿花や栗など栽培することにより粗放的管理を長期間行えるよう推進を図っています。	経済産業部 政策管理局産業政策課	農地保全課
	棚田を維持していくためには、長期的に棚田に携わることができるプロデューサー的な人材が必要であると考える。	(農地保全課) 地域づくりや経営についてコンサルティングできる企業との関係構築を推進しており、千榎棚田や久留女木棚田では企業からの支援のもと、10年後の将来ビジョンを可視化したランドデザインを策定しました。今後はこのような人材が地域に根づくよう、人材育成や関係人口増加に係る支援を検討していきます。	経済産業部 政策管理局産業政策課	農地保全課
	棚田を維持していくためには、マンパワーが必要だと考える。短期的、スポット的ではなく、継続的なサポートを続けるべきである。	(農地保全課) 現在、県内の棚田で企業や大学との長期にわたる連携により人員・人材を確保している例もあります。今後は他の棚田においても、田植えや稲刈り以外の日常管理にも積極的に参加できる企業や大学との連携を図っていきます。また、人員・人材確保以前に日常管理の負担を軽減するため、条件が悪い区画の粗放的管理や情報技術を用いた水管理などの試行を行っていきます。	経済産業部 政策管理局産業政策課	農地保全課
	農業自体が高付加価値のものしか生き残れない時代になっているため、棚田もどのような価値を生み出していくのか考えていく必要があるのではないか。	(農地保全課) 全国には棚田米の高付加価値化や企業連携による新商品開発等により継続的な収入を得ることに成功している棚田も存在し、県内においても千榎棚田の酒米や久留女木棚田の綿花が付加価値を生み出しています。今後も、全国棚田（千枚田）サミット出席による先進地視察や他の棚田との意見交換を促し、棚田の今後について考える機会を提供していきます。	経済産業部 政策管理局産業政策課	農地保全課
取組番号8-1 豊かな暮らし空間創生	豊かな暮らし空間創生住宅地の具体的な認定基準は何か。緑化推進にあたり、認定された場所はその後の維持管理ができているのか確認したい。	(住まいづくり課) 以下の要件を満たした新規住宅地（6区画以上）を「豊かな暮らし空間創生住宅地」として認定しています。 ①庭やコモンスペースの面積が住宅の延べ面積以上を有する ②道路や隣地との境界に一定の空間を設ける ③庭の緑化、建築物色彩の調和、高さの要請など景観に配慮する ④良好な住環境を維持するための体制を明確にする 豊かな暮らし空間創生住宅地は、上記④のとおり良好な住環境を維持するための体制を明確にすることが認定基準となっており、認定住宅地ではその後の維持管理がされています。	くらし・環境部 政策管理局企画政策課	住まいづくり課
	私有地にある緑の維持管理は容易ではないため、県として私有地の緑化に取り組むのであれば、積極的にPRしてほしい。	(住まいづくり課) 豊かな暮らし空間創生では、都市圏にない生活と自然が調和したゆとりある、緑豊かな景観に配慮した住宅地を認定しています。認定住宅地は、東京都有楽町にある“ふじのくにに住みかえる”静岡県移住相談センターにパンフレットを配架するなど、首都圏の移住・定住希望者等にPRしています。	くらし・環境部 政策管理局企画政策課	住まいづくり課
取組番号8-2 安全で美しいいなみ整備	年間の予算執行が少なすぎると感じる。県ではどのくらい補助を行っているのか。県が直に補助を行う制度にすれば良いのではないのか。	(住まいづくり課) これまでの補助実績は、計28件（令和2年度～令和5年度）です。景観形成やまちづくりの実施主体は基本として市町であり、県は市町の取組を支援するとして市町との協調補助としています。様々な理由により、美しいいなみ整備に取組む市町が少ないため、制度未整備の市町に対して制度創設を働き掛けていきます。	くらし・環境部 政策管理局企画政策課	住まいづくり課
	他の県、自治体の事例研究や、景観形成で似た制度調査を行なうべきである。	(住まいづくり課) 本制度は、大阪府北部地震（2018年）におけるブロック塀倒壊事故を踏まえ、通学路等に面する危険なブロック塀等が撤去される機会を捉え、安全で美しいいなみが形成されるよう、植栽を基調としたいなみへ誘導を図ることを目的として創設しています。	くらし・環境部 政策管理局企画政策課	住まいづくり課

関係する取組	委員意見	対応	担当する 静岡県緑化推進会議構成員	担当課																							
取組番号9-11 芝生関連事業	現在暑さに強い芝が求められており、そのような芝の品種改良や暑さへの対応を研究するべきである。また、暑さに強い芝の品種を県有施設に入れることは可能か検討してほしい。	(環境ふれあい課) 芝生文化創造プロジェクトではバミューダグラスによる園庭・校庭の芝生化を推進しており、比較的暑さに強い品種ではありますが、近年の急激な気温上昇により悪影響が出ることは十分に想定できるため、暑さに対応した研究も取り入れていきます。県有施設の芝生の入れ替えには多額の費用がかかることもあり、芝生の生育状況を見ながら施設ごとに対応を検討していきます。	環境ふれあい課	環境ふれあい課																							
取組番号25 森づくり県民大作戦	森づくり県民大作戦の具体的な内容について知りたい。	(環境ふれあい課) 森づくり県民大作戦は、森づくりや自然とふれあう機会を提供するため、地域住民、森づくり団体、企業等の連携と協働により実施しています。具体的には、植栽や間伐等の森林整備をはじめ、木工クラフトや炭焼等の体験活動、講演会・講習会等、幅広く森づくり活動・イベントを実施しています。	環境ふれあい課	環境ふれあい課																							
	業者から買ってきた苗を使用すると、森が遺伝的に変わってしまい、本当の意味での森の再生ではないと考える。植樹で使用する苗はその森でとれた種を育てたものにするべきであり、森の役割についてもきちんと教えるべきである。	(環境ふれあい課) 県立森林公園では天然下種による実生苗が発生しており、これらを活用して森の再生を図っています。植樹で使用する苗は郷土樹種を用いるなど森づくり団体に周知をしていきます。	環境ふれあい課	環境ふれあい課																							
取組番号26 しずおか未来の森サポーター	予算はどのように使われているのか。苗木などに使われているのか確認したい。	(環境ふれあい課) しずおか未来の森サポーター制度は社会貢献活動として森づくり活動に取り組む企業・団体と森林所有者、森づくり団体と県が協定を結んで実施するものであり、県はコーディネーターや広報を担当し、県から資材提供等は行っておりません。植樹で使用される苗木代等はサポーター企業が負担するケースが多くなっています。	環境ふれあい課	環境ふれあい課																							
	どれくらい効果が上がっているのかなど、費用対効果について確認したい。	(環境ふれあい課) 令和5年度実績で、資金3,224万円、労力4,177人がサポーター企業等から提供されました。これにより、191haの森林整備が進みました。	環境ふれあい課	環境ふれあい課																							
取組番号27 ふじのくに森の防潮堤づくり	予算が0になっているが、見学会や植樹祭、苗木代等はどうに支出しているのか確認したい。	(森林保全課) イベントでは事業主体である市及び企業が苗木や道具等を用意しました。	経済産業部 政策管理局産業政策課	森林保全課																							
	各関係者、関係機関の協働で実施している事業であるため、実績欄には、協力している市、地元企業、地元住民等について具体的に詳しく記載してほしい。	(森林保全課) 「令和5年度の実績」については以下の情報を追記します。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>イベント名</th> <th>主催</th> <th>参加人数</th> <th>植栽本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幸浦の丘プロジェクト植樹会</td> <td>袋井市</td> <td>140人</td> <td>760本</td> </tr> <tr> <td>(株)キャタラー植樹活動</td> <td>(株)キャタラー</td> <td>400人</td> <td>4,100本</td> </tr> <tr> <td>潮騒の杜植樹祭</td> <td>掛川市</td> <td>120人</td> <td>486本</td> </tr> <tr> <td>福田中学校卒業記念植樹</td> <td>磐田市、福田中学校</td> <td>130人</td> <td>332本</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>790人</td> <td>5,678本</td> </tr> </tbody> </table>	イベント名	主催	参加人数	植栽本数	幸浦の丘プロジェクト植樹会	袋井市	140人	760本	(株)キャタラー植樹活動	(株)キャタラー	400人	4,100本	潮騒の杜植樹祭	掛川市	120人	486本	福田中学校卒業記念植樹	磐田市、福田中学校	130人	332本	合計		790人	5,678本	経済産業部 政策管理局産業政策課
イベント名	主催	参加人数	植栽本数																								
幸浦の丘プロジェクト植樹会	袋井市	140人	760本																								
(株)キャタラー植樹活動	(株)キャタラー	400人	4,100本																								
潮騒の杜植樹祭	掛川市	120人	486本																								
福田中学校卒業記念植樹	磐田市、福田中学校	130人	332本																								
合計		790人	5,678本																								
その他（脱炭素に関する取組）	脱炭素は非常に大切なことなので、県としては横断的に一体となって取り組むべきである。また、植林や木材利用等は教育の場でしっかりと教えるべきだと考える。	(事務局) (環境ふれあい課) 静岡県では、第4次静岡県環境基本計画の中で、1 脱炭素社会の構築、2 循環型社会の構築、3 良好な生活環境の確保、4 自然共生社会の構築、5 環境と調和した社会の基盤づくりを施策体系に掲げ、県の横断的な取組として「地球環境を守り、地域資源を活かし共に支え合う、「環境と生命の世紀」にふさわしい“ふじのくに”の実現」を目指しています。	環境ふれあい課	環境ふれあい課																							
	脱炭素はグリーンバンクだけの取組ではなく、県の横断的な取組として進めてほしい。																										
	木材利用の推進よりは、これまでグリーンバンクが取り組んできた都市緑化に即した気候変動対策の方が、グリーンバンクが行なっている他の取組とも親和性があり、効果的ではないかと考える。	(静岡県グリーンバンク) 企業が脱炭素化に取り組む場合、温室効果ガスの排出削減に取り組むことが中心となります。しかし、この取組だけではカーボンニュートラルを実現することはできません。森林資源は温室効果ガスの吸収源として大きな役割を果たしていますが、これは企業にあまり知られていません。そこで、木材利用を進めることが森林吸収量の確保・強化に繋がることについて、セミナー等を通じて企業に普及啓発を行いました。また、気候変動対策につながる緑化活動についても冊子を作成しセミナーやYouTube動画等で普及啓発を行っています。今後もこれらを両立し企業等へ普及啓発を行います。	静岡県グリーンバンク	静岡県グリーンバンク																							
	施業林だけでなく、身近な里地里山にもウッドチェンジの視点を取り入れてほしい。手入れされた里地里山があって初めて森の恵みを手に入れることができると考える。	(事務局) (環境ふれあい課) ウッドチェンジの視点を施業林だけでなく身近な里地里山にも取り入れることは、生物多様性の保全や地域経済への貢献、環境教育、災害防止、文化的価値の継承など、多岐にわたる重要な意義があります。手入れされた里地里山があってこそ森の恵みを得ることができるという点は、このような多面的な価値を考慮すると非常に明確です。県では、この貴重な資源を次世代に引き継ぐためにも、様々な主体が行う維持、保全活動を積極的に支援していきます。	環境ふれあい課	環境ふれあい課																							